



## 2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年2月13日

上場会社名 株式会社エス・サイエンス 上場取引所 東  
 コード番号 5721 URL <http://www.s-science.jp>  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 久永 賢剛  
 問合せ先責任者（役職名） 総務部長（氏名） 甲佐 邦彦 TEL 03-3573-3721  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

## 1. 2025年3月期第3四半期の業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

## （1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	480	—	△226	—	△230	—	△29	—
2024年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	△0.20	—
2024年3月期第3四半期	—	—

（注）当社は、2025年3月期第2四半期までは連結業績を開示しておりましたが、当第3四半期より非連結での業績を開示しております。そのため2024年3月期第3四半期の経営成績（累計）及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

## （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	3,078	2,938	95.5
2024年3月期	3,122	2,967	95.0

（参考）自己資本 2025年3月期第3四半期 2,938百万円 2024年3月期 2,967百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	0.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年3月期の業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	610	△15.1	△290	—	△295	—	△99	—	△0.70

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期3Q	141,593,749株	2024年3月期	141,593,749株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	2,167株	2024年3月期	2,167株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年3月期3Q	141,591,582株	2024年3月期3Q	141,591,582株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査 : 無  
法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社は、2024年7月31日に当社の子会社であった、株式会社なごみ設計の全株式を売却したことに伴い、第2四半期累計期間までは連結決算でありましたが、当第3四半期会計期間より非連結決算に移行しました。前第3四半期連結累計期間においては四半期連結財務諸表を作成しておりましたが、上記により当第3四半期累計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、比較分析は行なっておりません。

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が進み個人消費の回復やインバウンド需要の高まりにより、緩やかな回復基調で推移しました。一方、ウクライナ・中東地域での戦争が地政学的に不安定さが長期化するなか、政治情勢の変動による原油などのエネルギー価格や物価上昇、人件費上昇、米国の政権交代による今後の政策動向など景気の先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況の下、当第3四半期累計期間の当社の業績につきましては、売上高4億80百万円、営業損失2億26百万円、経常損失2億30百万円となりましたが、特別利益に子会社株式売却益2億6百万円を計上したことにより四半期純損失29百万円となりました。

セグメント業績は次のとおりであります。

なお、当第3四半期会計期間においては、報告セグメントの変更を行っております。詳細は、「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等の注記)【セグメント情報報】3. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

#### (ニッケル事業)

LMEのニッケル価格が下落したことにより販売価額も落ち込んだため、売上高は4億74百万円となりました。

#### (不動産事業)

賃貸料収入のみ計上されたため、売上高は5百万円となりました。

#### (教育事業)

売上はありませんでしたが、事業所維持のため費用等が発生しており、セグメント損失(営業損失)は、12百万円となりました。

#### (スマートDXソリューション事業)

2024年8月より開設された新事業のため売上はありませんでしたが、費用が発生しているためセグメント損失(営業損失)は、20百万円となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### 資産、負債及び純資産の状況

##### (資産)

当第3四半期会計期間末の資産につきましては、流動資産は前事業年度末に比べ10百万円増加し29億82百万円となりました。これは主に電子記録債権の増加等によるものであります。

固定資産は前事業年度に比べ54百万円減少し95百万円となりました。これは子会社株式の売却等によるものであります。

##### (負債)

当第3四半期会計期間末の負債につきましては、流動負債は前事業年度末に比べ3百万円増加し、39百万円となりました。これは主に未払金の増加によるものであります。

固定負債は前事業年度末に比べ17百万円減少し、1億円となりました。これは主に役員退職慰労引当金の減少によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産につきましては、前事業年度末に比べ29百万円減少し、29億38百万円となりました。これは主に四半期純損失を計上したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2024年11月13日に発表いたしました通期の業績予想に変更はありませんが、今後業績予想の数字に影響を及ぼす状況が生じた場合は、速やかに開示を行いません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等

前連結会計年度においては、営業損失やマイナスの営業キャッシュ・フローを計上しており、当第3四半期累計期間においても、営業損失の状態が続いておりますので、継続企業の前提に関する重要事象等が存在しておりますしかしながら、この状況を改善するため2023年3月期に資金調達を行ない、更に前期2024年3月期において有価証券の運用で大きな利益が出たことで、資金計画が充分できたこと等により不確実性は認められません。

そのため、継続企業の前提に関する注記の必要は無いものと判断しております。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,755,430	1,723,300
預け金	418,816	418,813
受取手形	28,597	25,471
売掛金	74,305	93,614
電子記録債権	31,107	59,653
販売用不動産	351,071	351,071
商品及び製品	288,038	296,720
前払費用	3,352	3,457
未収入金	537	499
未収還付法人税等	1,382	8
未収消費税等	16,411	7,125
その他	3,470	3,080
貸倒引当金	△41	△38
流動資産合計	2,972,480	2,982,777
固定資産		
有形固定資産	1,144	975
投資その他の資産		
投資有価証券	1,174	1,288
関係会社株式	50,000	-
出資金	900	900
敷金及び保証金	50,891	63,681
長期貸付金	2,400	2,400
会員権	19,308	19,308
長期未収入金	31,822	31,812
その他	29,556	12,607
貸倒引当金	△37,422	△37,412
投資その他の資産合計	148,630	94,585
固定資産合計	149,774	95,561
資産合計	3,122,255	3,078,339

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2024年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	12,421	8,441
未払金	8,223	17,657
未払費用	4,276	4,660
未払法人税等	5,680	3,947
前受収益	79	1,865
預り金	3,018	1,831
賞与引当金	2,346	728
流動負債合計	36,044	39,133
固定負債		
退職給付引当金	15,497	13,524
役員退職慰労引当金	100,450	85,044
受入敷金保証金	1,800	1,800
繰延税金負債	254	294
資産除去債務	591	-
固定負債合計	118,593	100,662
負債合計	154,638	139,795
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	2,597,570	2,597,570
利益剰余金	269,659	240,510
自己株式	△94	△94
株主資本合計	2,967,135	2,937,987
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	481	556
評価・換算差額等合計	481	556
純資産合計	2,967,616	2,938,543
負債純資産合計	3,122,255	3,078,339

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)
売上高	480,356
売上原価	420,074
売上総利益	60,282
販売費及び一般管理費	287,252
営業損失(△)	△226,970
営業外収益	
受取利息	0
受取配当金	97
受取賃貸料	40
その他	1,283
営業外収益合計	1,422
営業外費用	
その他	4,797
営業外費用合計	4,797
経常損失(△)	△230,345
特別利益	
子会社株式売却益	206,000
特別利益合計	206,000
特別損失	
事業所閉鎖損失	854
特別損失合計	854
税引前四半期純損失(△)	△25,200
法人税、住民税及び事業税	3,947
法人税等合計	3,947
四半期純損失(△)	△29,148

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

I 当第3四半期累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	ニッケル事業	不動産事業	教育事業	スマートDX ソリューション事業		
売上高						
外部顧客への売上高	474,361	5,994	—	—	—	480,356
計	474,361	5,994	—	—	—	480,356
セグメント利益又は セグメント損失(△)	28,334	△5,094	△12,244	△20,120	—	△9,125

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「スーパーマーケット関連事業」を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	△9,125
全社費用(注)	△217,844
四半期損益計算書の営業損失(△)	△226,970

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当グループのセグメントは、「ニッケル事業」、「不動産事業」、「教育事業」、「リフォーム関連事業」、「その他」の5つに区分しておりましたが、2024年8月より新規事業として「スマートDXソリューション事業」を立ち上げたことで、これを加えた6つのセグメントに変更することといたしました。その後、2024年10月からは、「リフォーム関連事業」を運営している関連会社である株式会社なごみ設計の全株式を、株式会社エルアイイーエイチに売却したことにより、「リフォーム関連事業」が無くなり5つのセグメントになりました。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係るキャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は次のとおりであります。

	当第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	1,046千円